

FUJITSU Software
ServerView Infrastructure Manager V2.1
仮想リソース管理機能の事前設定

2017年7月
富士通株式会社

仮想化基盤の運用監視は、ServerView Infrastructure Manager V2.1 の仮想リソース管理機能を使用して行えます。本書は仮想リソース管理機能に必要な事前設定の情報を提供します。

本書に記載の詳細や略語については、下記のマニュアルを参照してください。

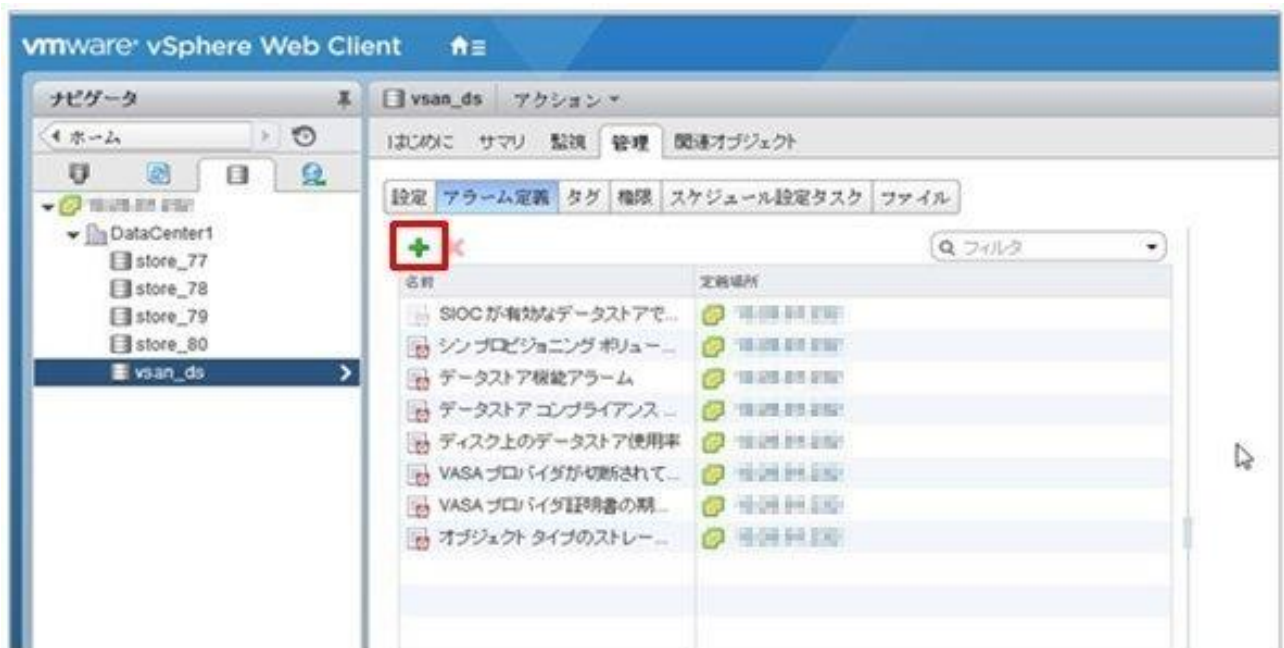
- ・ FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V2.1 ユーザーズマニュアル
- ・ FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V2.1 用語集

■VMware VSAN の事前設定

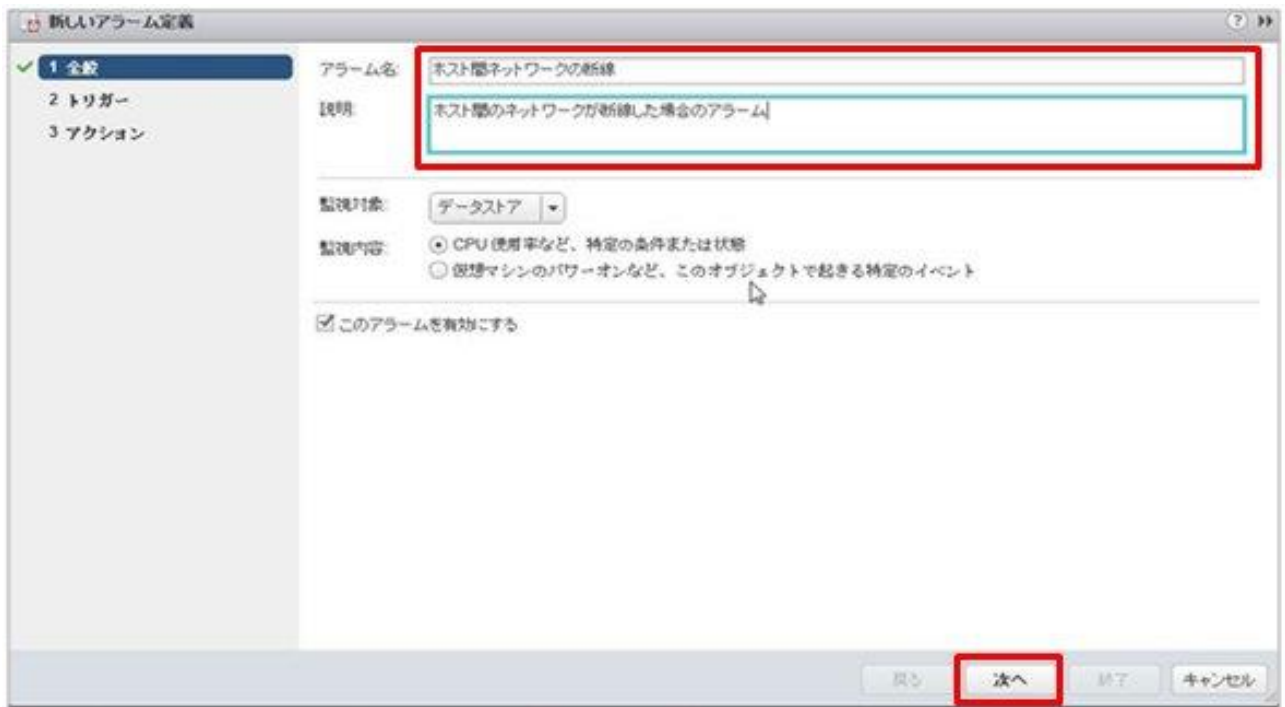
VMware VSAN のホスト間のネットワーク断線による VSAN データストアの異常を検出できるようにするためアラーム定義を行います。VSAN のアラーム定義の追加方法について説明します。

1. vSphere Web Client画面を表示します。[ホーム]からストレージビュータブを選択し、表示されたデータストアからVSANデータストアを選択します。(以下はVSANデータストア名が「vsan_ds」の例です。)

表示された画面右側の[管理]タブ（vCenter ServerAppliance 6.5の場合は[監視]タブから[問題]を選択）から[アラーム定義]を選択して[+]を選択します。

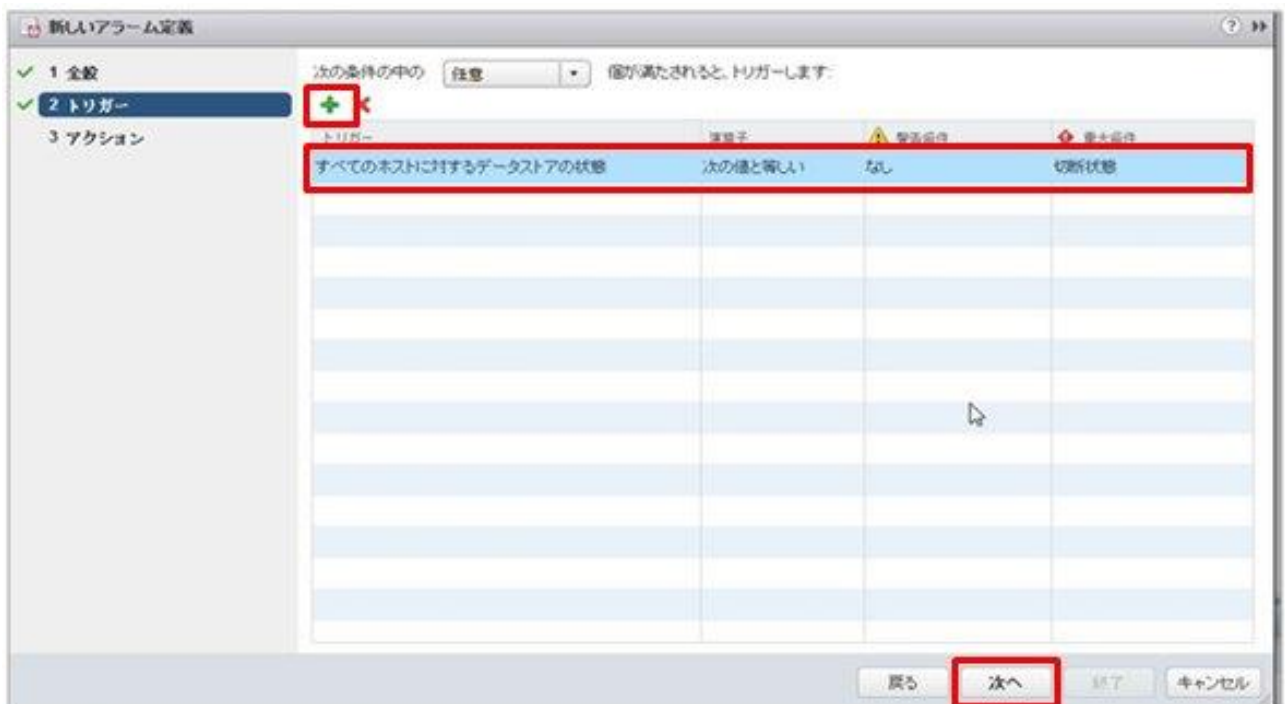


2. ウィザード画面が表示されるので、「アラーム名」と「説明」に下表のように入力して、[次へ]ボタンを選択します。



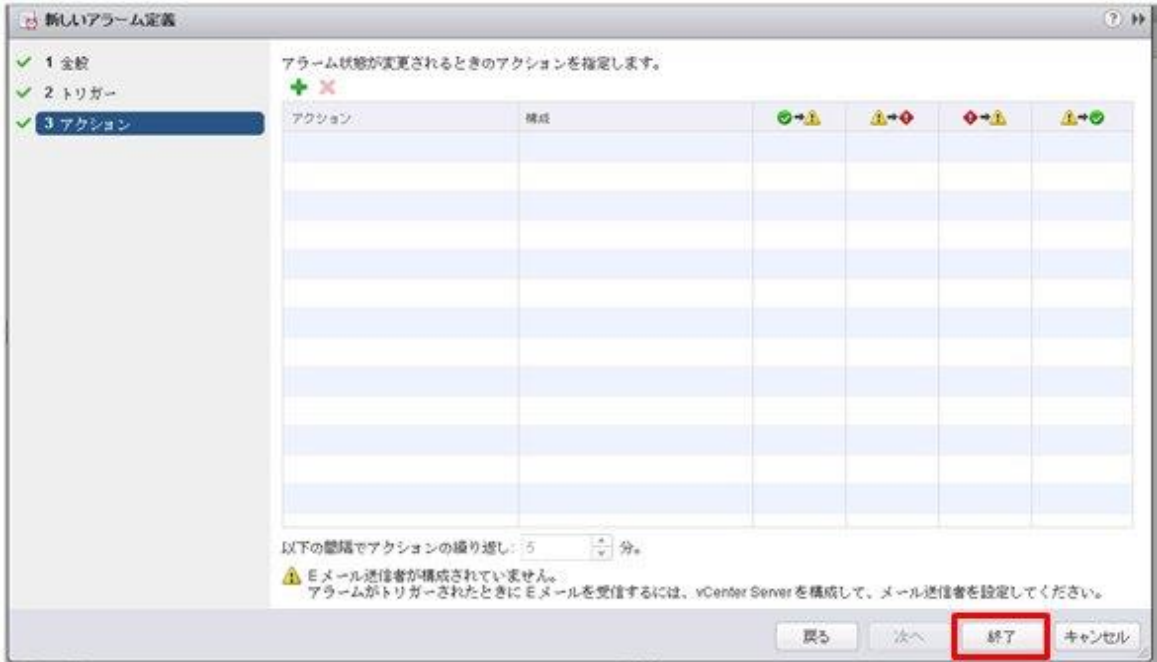
項目	入力内容
アラーム名	ホスト間ネットワークの断線
説明	ホスト間のネットワークが断線した場合のアラーム

3. 以下の画面で[+]を選択し、各項目を下表のように設定して、[次へ]ボタンを選択します。

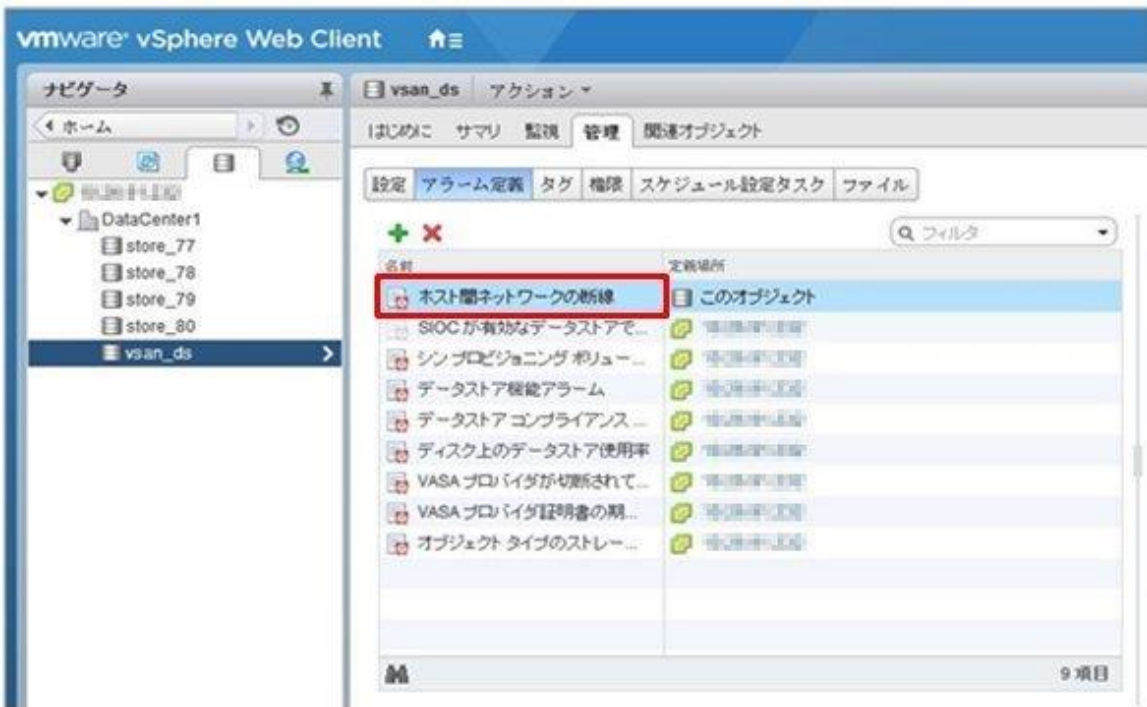


項目	設定値
トリガー	すべてのホストに対するデータストアの状態
演算子	次の値と等しい
警告条件	なし
重大条件	切断状態

4. アクションは設定不要です。[終了]ボタン（または[完了]ボタン）を選択します。



5. 完了すると、アラーム定義に新しい定義が追加されます。



■ Storage Spaces Direct の事前設定

Microsoft Storage Spaces Direct の運用管理を行うために、ISM-VA に対して OS 監視の設定、および記憶域プールを構成するすべてのノードに対して CredSSP 認証の有効化が必要です。以下の手順で実施してください。

ISM-VAへの設定

ISM から OS 監視をするための設定を行います。設定方法については、「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V2.1 監視対象 OS、仮想化管理ソフトウェアに対する設定」の（2.1 Windows への設定手順）を参照してください。

ノードへの設定

記憶域プールを構成するすべてのノードに対して CredSSP 認証の有効化を設定します。

注意

本設定を行わない場合、Storage Spaces Direct に対して仮想リソース管理機能が利用できません。また、記憶域プールを構成するノードは、サーバーマネージャーまたはフェイルオーバークラスタマネージャーから確認できます。

1. ノードにドメイン管理者権限のユーザーでログインし、PowerShellを起動します。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
Enable-WSManCredSSP -Role client -DelegateComputer <対象ノード（コンピューター）名>
```

ドメイン内のすべてのコンピューター名の指定には、ワイルドカード (*) を使用できます。

例：

```
Enable-WSManCredSSP -Role client -DelegateComputer *.fujitsu.local
```

3. 続いて以下のコマンドを実行します。

```
Enable-WSManCredSSP -Role server
```

以上